

シラバス参照

授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理
単位数	2
授業形態	講義
講義コード	5652
授業担当者氏名	宮島祐(ミヤジマ タスク) 野澤純子(ノザワ ジュンコ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	1. 知的障害の概念・定義について説明できる。(DP1) 2. 知的障害の生理・病理の基礎を列挙できる。(DP1) 3. 知的障害児の心理的特性を説明できる。(DP1・DP4) 4. 知的障害児の心理臨床の基礎を述べることができる。(DP4・DP9)																						
授業概要	知的障害の概念・定義、発生原因となる疾患、それに伴う症状、合併症について、知的障害児の生理・病理の基礎を習得する。軽度・中等度・重度、最重度、および境界領域それぞれの段階に応じた特徴、乳幼児健診、超早期からの療育、家族支援の関わり方について理解する。知的障害児への支援に必要な心理学の基礎を理解し、典型的な発達と知的障害の発達の違いを理解し、認知発達、心理・教育アセスメント、行動問題への対応、超早期段階からの教育的支援と家族支援について学ぶ。																						
教育課程内の位置づけ	子ども支援学科 専門教育科目 支援科目 2年 選択																						
授業におけるアクティブな特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>B: 課題解決型(PBL)連携なし</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>C: 討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>D: グループワーク</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>E: プレゼンテーション</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>F: 実習、フィールドワーク</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>G: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>I: 反転授業</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>J: 外国語のみで行われる授業</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-	D: グループワーク	-	E: プレゼンテーション	-	F: 実習、フィールドワーク	-	G: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-	H: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)	-	I: 反転授業	-	J: 外国語のみで行われる授業	-
特徴	該当																						
A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-																						
B: 課題解決型(PBL)連携なし	-																						
C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	-																						
D: グループワーク	-																						
E: プレゼンテーション	-																						
F: 実習、フィールドワーク	-																						
G: 双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	-																						
H: 双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)	-																						
I: 反転授業	-																						
J: 外国語のみで行われる授業	-																						
授業計画	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>知的障害の概念・定義・分類(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>知的障害の生理・病理(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>知的障害の症状(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>知的障害の合併疾患・大脳機能障害症候群(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>障害の程度からみた心理・身体的特性(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>乳幼児健診における早期発見、関連機関との連携(宮島 祐)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>知的障害の認知、記憶、学習と動機づけ(野澤純子)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>知的障害の言語・コミュニケーション(野澤純子)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>知的障害児の心理・教育アセスメント1 乳幼児期(野澤純子)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>知的障害児の心理・教育アセスメント2 学齢期(野澤純子)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>アセスメントに基づく教育的診断(野澤純子)</td> </tr> </tbody> </table>	第1回	知的障害の概念・定義・分類(宮島 祐)	第2回	知的障害の生理・病理(宮島 祐)	第3回	知的障害の症状(宮島 祐)	第4回	知的障害の合併疾患・大脳機能障害症候群(宮島 祐)	第5回	障害の程度からみた心理・身体的特性(宮島 祐)	第6回	乳幼児健診における早期発見、関連機関との連携(宮島 祐)	第7回	知的障害の認知、記憶、学習と動機づけ(野澤純子)	第8回	知的障害の言語・コミュニケーション(野澤純子)	第9回	知的障害児の心理・教育アセスメント1 乳幼児期(野澤純子)	第10回	知的障害児の心理・教育アセスメント2 学齢期(野澤純子)	第11回	アセスメントに基づく教育的診断(野澤純子)
第1回	知的障害の概念・定義・分類(宮島 祐)																						
第2回	知的障害の生理・病理(宮島 祐)																						
第3回	知的障害の症状(宮島 祐)																						
第4回	知的障害の合併疾患・大脳機能障害症候群(宮島 祐)																						
第5回	障害の程度からみた心理・身体的特性(宮島 祐)																						
第6回	乳幼児健診における早期発見、関連機関との連携(宮島 祐)																						
第7回	知的障害の認知、記憶、学習と動機づけ(野澤純子)																						
第8回	知的障害の言語・コミュニケーション(野澤純子)																						
第9回	知的障害児の心理・教育アセスメント1 乳幼児期(野澤純子)																						
第10回	知的障害児の心理・教育アセスメント2 学齢期(野澤純子)																						
第11回	アセスメントに基づく教育的診断(野澤純子)																						

	第12回	超早期からの教育的支援と家庭支援(野澤純子)
	第13回	フィールドワーク(野澤純子)
	第14回	授業のまとめ(宮島 祐)
授業外学修 予習(事前学 修)	各授業 100分	講義テーマについて、テキストや配布資料等で予習しておくこと
授業外学修 復習(事後学 修)	各授業 100分	講義ごとに、要点をA4版1枚程度に文章で整理すること
評価方法	期末課題60%、ミニレポート30%、授業態度10%、60%以上を合格とする。	
教科書等	「障害児心理入門」井澤 信三, 小島 道生(著) 出版社: ミネルヴァ書房、ISBN-10: 4623065510 ISBN-13: 978-4623065511 その他、テーマに沿った資料を適宜配布する。	
課題に対する フィードバック の方法	必要に応じて解説する。	
その他	オムニバス形式	
授業担当者の 実務経験の有 無	実務経験あり	
授業担当者の 実務経験の内 容	医師(小児神経)、療育機関心理相談・学校巡回相談心理士の経験を生かして、基礎的情報に加え、具体的な講義を展開する。	
ファイル		